

2009.10.9 - 2009.10.16 29号

砂湖を市内最大な湖公園に改造する予定

「8ヶ月後、ここは湖水が波打つ都市内最大の湖公園になる」10月14日、砂湖の傍に車でたまった泥を運び出す従業員がそう言った。

砂湖とは武漢市内の環線にある最大の湖である。「大東湖」の一部であるその面積は266ヘクタールにもおよび、現在水質は劣レベル5であった。

6月に始まった「大東湖」プロジェクトの一環として、砂湖の歴史上最大規模の治水工事が行われている。このプロジェクトは土砂排除、生態の回復、砂湖公園建設を含んでおり、総投資額は25億元以上を超える。

湖水のほとんどを抜き出し、湖底の沈殿した露出させ、汚泥20センチから50センチの厚さの泥を取り除く。計算によると、合計105万立方メートルが取り除かれることになり、武漢市において、最も多く汚泥の処理をした湖の回復プロジェクトになる。

これほど大量な泥を取り除く際にあたり、周辺環境への二次汚染が起こる可能性があるため、武漢水資源発展投資有限公司は百萬元以上を投資し、泥を脱水固型化させる機械を購入、現場で泥を再利用可能な材料に再生し、国内最先端の技術により、汚染されていない状態の土砂の排除を実現する。関係者によると、今回の土砂排除には半年程度かかるとのことである。

同時に、砂湖と長江用水路の連結溝工事も開始された。完成すると水質レベル3の長江の水がたえまなく砂湖に引き入れられ、砂湖の清らかな水が波打つ風景を再現することが可能となる。

来年三月には、景観公園の建設が開始され、大量の水生植物が植えられ、湖に沿った景観散策道路や広場などの建設が行われる予定である。来年6月は市内最大の公園がお目見えする。

武漢東西湖保税物流センター運行開始より半年、累計税収1.7億元

武漢東西湖保税物流センター管理委員会が統計したデータによると、封鎖運行が開始して以来、東西湖保税物流センターの輸出入業務は合計で3064回を数え、貨物運輸量2.8万トン、総価値4.7億米ドルに達した。税収総額は1.7億元に達し、国務院保税物流センター実験基地を拡大して以来の税収総額が1億元を超えることとなった。

今年3月26日の封鎖運行開始から、東西保税物流センターは富士康、長飛光ファーマル、冠捷をはじめとする数多くの企業に通関サービスを提供しており、その業務範囲は湖北、広東、江西、河南、山西の各省まで拡張した。

保税物流センターの優遇政策を利用し、東西湖区政府は同センターを中心とした12.7平方キロメートルの保税経済区を造る計画がある。当区には武漢鉄道コンテナ貨物運輸ユニットや湖北デジタル港、武漢道路港、武漢鉄道要所などの通関関連施設が揃い、国際貿易、国際物流、海外向きの製造業と現代サービス産業地区の建設を目指す。現在、基盤設備の建設を急務としており、3年から5年をかけて、湖北省輸出加工製造基地と中西部地区に向けた現代国際商業貿易サービスステーションを造る予定。

2009.10.16 - 2009.10.22 30号

第五回中国総部経済ハイレベルフォーラム武漢で開催

今月 18 日、第五回中国本部経済ハイレベルフォーラムおよび第二回中部省会都市部発展フォーラムが武漢市の武昌区にて開催された。会議では「全国 35 ヶ主要都市本部経済発展能力評価報告 2009」が発表され、各都市の経済発展能力をランキングした結果、北京、上海、広州と深圳がトップ四位となった。

同フォーラムは「本部経済の発展と都市協力により新しいものを創出する」ことをテーマに、中国本部経済理論の創造者である北京市社会科学院趙弘研究員が「2009-2010 年度中国本部経済発展報告」及び「全国 35 ヶ主要都市本部経済発展能力評価報告 2009」を発表し、全国の 35 ヶ主要都市の経済発展能力をランキングした結果、北京、上海、深圳、杭州、南京、天津、成都、青島、武漢が上位 10 位を占め、注目を集めた。

また会議には「政、産、学」の各分野のエリートが集まり、総部経済理論の研究と実施状況および発展の最新の成果を共有するとともに、総部経済発展の内的要因や中心都市、および都市部の総部経済発展、産業のレベルアップと経済のモデルチェンジについて意見交換を行い、中国総部経済のより高度でより先進への発展を促進し、都市と都市、都市部と都市部の間の友好と相互理解を深めるために尽力した。

全国 20 ヶ都市、50 ヶ都市部の専門家、学者、政府職員および有名企業の代表者 300 人以上がフォーラムに参加した。

同時に開催された第二回中部省会都市部発展フォーラムは「金融危機に立ち向かい、総合的な競争能力を高める」をテーマに、武昌区人民政府が主催した。南昌市、合肥市、鄭州市、太原市、長砂市及び武漢市の 28 ヶ都市部の責任者が国際金融危機への対応、経済安定増長の促進、および省会都市部間の交流促進について意見を交換した。会議では「第二回中部省会都市部発展フォーラム会議議事録」を認めた。

2009 年 10 月 18 日付け 「大楚ネット」より

「ドイツー中国大道」はただの道ではない

今月 23 日から 31 日の間、漢工バンドで「ドイツー中国大道」が開催される。これは「ドイツー中国同行」武漢ステーションの最高潮であり、市民たちを「持続可能な都市化プロセス」という主題に沿って、創造力溢れ都市公衆空間へ導く。

漢口バンドでは 10 以上の竹の展示室が造られた。これらの展示室はミュンヘンの芸術家マルクス・ハインシタンドフにより設計され、外見は自然から取材して、しずく、もしくはダイヤモンドのような形をしている。

展示室の素材には安徽省で生産された竹を使用しており、これに金色や銀色のハイテクシートと一緒に造り上げた。「ドイツー中国同行」活動の公式合作パートナーとドイツ連邦各部の委員会は、ここで持続可能な都市化プロセスについての貢献とアイデアなどを展示する予定。



会議室とドイツ美人

2009.10.24 - 2009.10.30 31号

一回目の新型インフルエンザワクチン武漢に到着、来月から接種開始

昨日、アメリカで新型インフルエンザの流行が緊急状態に入ると宣言があった。感染者数は百万人以上に広がる恐れがあり、再び市民からの注目を集めている。

昨日、衛生部疾病予防制御局副局長である于競進氏が武漢における医療現場現状調査研究を行った際には「中国での感染拡大状況は効果的に抑えられており、国民全員がワクチンを注射する必要がなく、健康的な生活をおくり、緊張せず精神をリラックスさせ、病気に対する抵抗力をつけることが最も有効的なワクチンである」と説明した。

于競進副局長によると、中国は新型インフルエンザのワクチンを最初に生産した国の一つだが、生産能力が限られるので感染リスクの高いグループを優先的に接種させることによってワクチンを最大限に活用しなければならない。今、中国の感染予防対策は学校、住宅団地を中心に実施され、全力で感染のリスクを減らすことに努力している。高いリスクグループの無料接種は年末までに完了される予定であり、これには医療関係者、検疫、出入国検査員、学生、教師、慢性病患者などが含まれているとのことだ。

湖北省衛生庁疾病制御処厳本武副処長は、既に第一回目となる94万本のワクチンを中央から湖北省に送り届けたが、これからまた二回、三回目で合計300万本のワクチンが配布する予定。11月から高いリスクグループを優先に接種する予定と説明した。

2009年10月25日付け 「武漢ネット」より

「中独同行」発展高層フォーラムが武漢で開幕

「中独同行」発展高層フォーラムが武漢で開催された。湖北省、武漢市及びドイツの政府職員、専門家と学者、企業責任者ら2000人以上は、持続可能な発展方法について話し合った。

在中国ドイツ大使館のマスケル大使はあいさつの中で、「環境問題は全世界が共に直面するチャレンジである」と語り、湖北省及び武漢市政府の環境経済の発展に対する努力をねぎらうとともに、今回のフォーラムを通じて相互協力が深まることを祈念した。

また湖北省の省長李鴻忠氏が来賓らに対し、湖北省の経済、社会発展に関する基本的な状況を紹介。「近年、湖北省とドイツの経済貿易協力は発展の傾向にあり、この協力における潜在能力は高い。ドイツの環境保全に関する先進技術と経験は、必ずや武漢の「両型

社会」づくりにおいて、新たな中独「環境協力」の歴史を切り拓くであろう」と表明した。

次いでドイツの元首相シュロエダー氏がフォーラムのテーマを発表し、「環境問題は全世界の協力により解決するしかない」と述べ、中国政府が持続可能な発展方法を重視していることに賛辞を呈したうえで、急速な発展の最中にある中国は「再生可能なエネルギーの利用比率を高めるべきである。」とも述べた。さらに「チャレンジはチャンスとともにある。環境保全産業は既にドイツの産業の柱ともなった」とも語った。



フォーラム現場の様子